



ユーザ事例
ITサービス



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

伊藤忠テクノソリューションズがAzure NetApp Filesを採用し、CTCグループ10,000ユーザー規模のWindows Virtual Desktop環境を支える高速なユーザープロファイル管理を実現しています。

CTCグループ10,000ユーザーが使う Windows Virtual Desktop環境を快適にする マイクロソフトのAzure NetApp Files

伊藤忠テクノソリューションズが、CTCグループ10,000ユーザー規模のVDI環境を「Windows Virtual Desktop」に移行しました。このクラウドVDIで「Windows 10マルチセッション」を利用するには、高性能のユーザープロファイル管理システムが不可欠です。CTCでは、マイクロソフトがMicrosoft Azure上のマネージドサービスとして提供するファイルストレージサービス「Azure NetApp Files」を採用することで、高速なユーザープロファイル管理と快適なユーザー体験を実現しました。

Windows Virtual Desktopユーザー

10,000

1TiBクォータあたりのスループット

64MiB/秒

☑ お問い合わせ

 NetApp®

“Azure NetApp Files を選定したのは、期待以上の高性能を実測したことに加え、GUIによる優れた操作性や ONTAP の機能を利用できるメリットをトータルに評価した結果です”

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 情報システム室 情報システム部
インフラシステム課 主任 長井 健太氏

チャレンジ

CTCグループ10,000ユーザーの シンククライアント環境を Windows Virtual Desktopに 全面移行

伊藤忠テクノソリューションズ(以下、CTC)は、日本を代表するITサービスカンパニーであるとともに、先進的なITユーザーとしても知られています。クライアントセキュリティの強化を目的に、2004年に最初のシンククライアントシステムを導入。その後、CTCグループの約10,000ユーザーが利用するRemote Desktop Services (RDS)方式によるシンククライアント環境を段階的に整備してきました。情報システム部 インフラシステム課 課長の浅沼宏紀氏は次のように話します。

「2020年初頭に、Microsoft Azureから提供される仮想デスクトップ (VDI) 環境『Windows Virtual Desktop』へ10,000ユーザーの移行を完了させました。シンククライアントが全社に根づいていたおかげで、新型コロナウイルスの緊急事態宣言が発令された際に、ほとんどの社員がスムーズに在宅勤務へ移行できました。シンククライアント環境が、セキュリティ対策にとどまらずパンデミックのような予期できない災害に対しても有効であることが証明された形です」

クラウドVDI (DaaS) として2019年9月にサービスが開始されたWindows Virtual Desktopは、VDI導入の有力な選択肢として大きな注目を集めています。CTCでは、Windows Server 2008 R2のサポート終了に合わせて、既存のRDSシンククライアントをWindows Virtual Desktopへ移行することを決めていました。

「Windows Virtual Desktopへの移行は、オンプレミスシステムの運用にかかる多大な負荷を低減するとともに、ビジネス要求に合わせてより柔軟にリソース拡張を行えるようにすることを狙ったものです。2019年夏ごろからベータ版でのテストを繰り返し、Azure ExpressRouteによるプライベート接続で、オンプレミスの業務システムでも快適に利用できることを確認してきました」(浅沼氏)

CTCでは、大規模なWindows Virtual Desktop環境を効率的に運用・管理するために、Citrix Cloud with Windows Virtual Desktopを組み合わせました。

「Citrix CloudでWindows Virtual Desktop環境を統合的に管理し、セキュリティポリシーの設定やモニタリング、パフォーマンスチューニングなどにも活用しています。高速なICAプロトコルを利用できるため、ユーザー



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
情報システム室 情報システム部
インフラシステム課 課長
浅沼 宏紀氏



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
情報システム室 情報システム部
インフラシステム課 主任
長井 健太氏

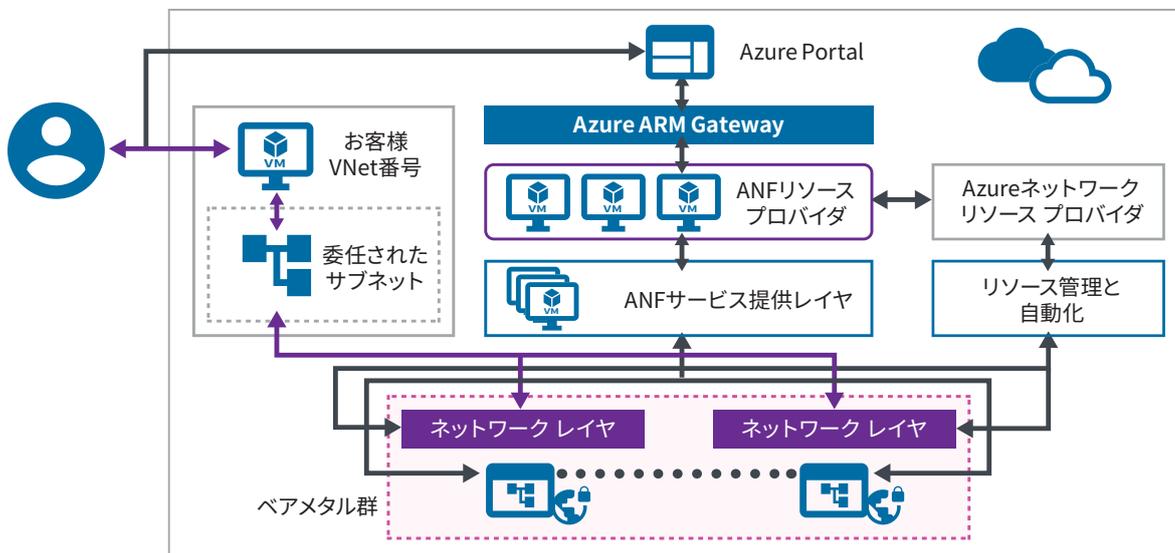
の体感速度を高いレベルで維持しながらネットワーク帯域・コストを抑制できます」と浅沼氏はそのメリットを話します。

CTCが、第1期5,000ユーザーのWindows Virtual Desktop環境の利用を開始したのは2020年1月。ここで、浅沼氏らはいくつかの課題に直面することになりました。これを解決に導いたのが、マイクロソフトの「Azure NetApp Files」でした。

ソリューション

Microsoft Azure上で マネージドサービスとして提供される ファイルストレージサービス 「Azure NetApp Files」

「Azure NetApp Files」は、マイクロソフトがMicrosoft Azure上のマネージドサービスとして提供するエンタープライズクラスのファイルストレージサービスです。2020年3月に日本リー



ジョンでもサービスが開始された Azure NetApp Filesでは、NetApp 最新のハイエンドオールフラッシュ アレイがサービス基盤に採用され、NetAppのストレージOS「ONTAP」の先進機能をMicrosoft Azure上で利用できます。

「Windows Virtual Desktopで『Windows 10マルチセッション』を利用するには、ユーザープロファイルを管理するストレージ環境が必須です。2020年1月の第1期導入では、Azure上にWindows Serverを構築し、スケールアウトファイルサーバー(SOFS)によりプロファイル領域を用意したのですが、性能、運用管理性、バックアップなどの面でやや不満が残りました。そこで、Azure NetApp Filesサービス開始後の2020年4月にリリースした第2期5,000ユーザーには、迷わず Azure NetApp Filesを採用しました」と情報システム室 主任の長井健太氏は話します。

長井氏は、採用の理由を「Azure NetApp Filesの優位性が圧倒的だったから」と言います。長井氏らはネットアップの支援を受けて Azure NetApp

Filesの性能検証を実施し、SOFSを大幅に上回る高スループットと低遅延を確認しました。

「Azure NetApp Filesを選定したのは、期待以上の高性能を実測したことに加え、GUIによる優れた操作性やONTAPの機能を利用できるメリットをトータルに評価した結果です。SOFSのようにWindows環境の仮想マシンをメンテナンスする必要はなく、コストパフォーマンスでもSOFSを上回りました。Snapshotによる高速なバックアップなど、使い慣れたONTAPの機能を使えることはやはり大きな魅力です。また、SnapMirrorの技術を応用した『クロスリージョンレプリケーション』による災害対策にも期待しています」(長井氏)

Azure NetApp Filesには、Ultra/Premium/Standardの3つのパフォーマンスレベルが用意されており、CTCが採用したPremiumでは1TiBクォータあたり64MiB/秒のスループットが保証されています。Azure NetApp Filesでは容量を拡大するほどスループットを高められる特徴があり、負荷の変動に合わせて容量とスループット

をオンデマンドで変更するような運用も可能です。

「Azure NetApp Filesを採用したことで、第2期5,000ユーザーにより快適なWindows Virtual Desktop環境を提供することができました。実運用の環境で容量を伸縮させることは考えていませんが、オンデマンドで容量と性能と『コスト』をコントロールできるという事実は、Azure NetApp Filesがクラウドサービスとしての重要な要件を満たしているものと言えるでしょう」(浅沼氏)

ベネフィット

NetAppのデータファブリックは、理想的なハイブリッド環境の実現に不可欠なテクノロジー

浅沼氏・長井氏を中心とするプロジェクトは、自社10,000ユーザー規模のWindows Virtual Desktop環境の設計から移行開始までの作業を、実質2か月という短期間で完了させました。Windows 10アップデートにテンプレートを利用する効率的な運用、Windows 10マルチセッションの適切なサイジング、FSLogixによるプロファ

イルローミングなど——CTCは、プロジェクトを通じて蓄積した様々な知見をもとに、顧客企業へのクラウドVDIの導入・移行を積極的に支援していくことを表明しています。

「初期投資を抑えながら短期間で導入でき、RDS環境からの移行も容易なWindows Virtual Desktopは、クラウドVDIの本命とも言えるサービスです。クライアントOSであるWindows 10 Enterpriseを利用するため、サーバーOSで構築するVDIと違ってアプリケーションの制約もありません。VDIユーザーの裾野を大きく広げてくれるものと期待しています」と長井氏は話します。

一方で長井氏は、Windows Virtual Desktop環境ならではの留意点を正しく捉えておく必要性も指摘します。

「たとえば、Windows Virtual Desktopの導入では、Windows 10のグループポリシー関連の設計・設定にかなりの工数と時間を要しますので

注意が必要です。CTCでは大規模社内導入実績や多数のお客様への導入により、シンクライアント運用に適したグループポリシーテンプレートの設計ノウハウがありますので、お客様はその手間を解消して導入期間の大幅な短縮が可能になります。高性能のAzure NetApp Filesにより、CTCの『クラウドVDIソリューション』はいっそう強化されました。ご期待ください」

クラウドVDIの導入が加速する一方で、オンプレミスのVDI環境との統合的な運用が新たな課題として顕在化しつつあります。クラウド(Azure NetApp Files)とオンプレミス(NetApp AFF)でシームレスにデータをやりとりできるNetAppのデータファブリックは、理想的なハイブリッド環境の実現に不可欠なテクノロジーのひとつとなるはず

です。CTCでは、第2期5,000ユーザーにおけるAzure NetApp Filesの成果を受けて、第1期5,000ユーザーをSDFSか

らAzure NetApp Filesへ移行させることを決めました。今後の計画を交えて、浅沼氏が次のように語って締めくくりました。

「BCPの観点から、Microsoft Azureの東西リージョンにクラウドVDI基盤を分散させて、相互にバックアップすることを検討しています。バックアップ&レプリケーションに、Azure NetApp FilesのSnapshotとクロスリージョンレプリケーションを利用できる安心感は大きいですね。CTCは、ネットアップのスターパートナーとして27年以上の協力関係を築いています。これからのビジネスを支えてくれることを期待しています」

ソリューションの構成

ネットアップ製品

Azure NetApp Files

Key Partners



詳細はこちら

<https://www.netapp.com/jp/cloud-services/products/azure-netapp-files.aspx>

📧 お問い合わせ

03-6870-7400



 **NetApp®**

ネットアップ合同会社

TEL:03-6870-7600

Email:ng-sales-inquiry@netapp.com

ネットアップは、ハイブリッドクラウドのデータに関するオーソリティです。クラウド環境からオンプレミス環境にわたるアプリケーションとデータの管理を簡易化し、デジタル変革を加速する包括的なハイブリッドクラウドデータサービスを提供しています。グローバル企業がデータのポテンシャルを最大限に引き出し、お客様とのコンタクトの強化、イノベーションの促進、業務の最適化を図れるよう、パートナー様とともに取り組んでいます。

詳細については、www.netapp.com/jpをご覧ください。
#DataDriven

© 2020 NetApp, Inc. All rights reserved.
記載事項は、予告なく変更される場合があります。内容の一部または全部をNetApp, Inc.の許可なく使用・複製することはできません。NetApp, NetAppロゴ、SolidFireは、米国およびその他の国におけるNetApp, Inc.の登録商標です。その他記載のブランド・製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。CSS-7138-0820